

中村武羅夫

戸川秋骨氏



戸川秋骨氏



戸川秋骨に面会した。

夏であった。紺緞の単衣を着て、白い帯を締められた。髪を少し長目に刈って、口髯の極めて濃い人である。顎のチョンボリとしたような、眼の可愛い人で、キチンと坐って静かな、そして丁寧な声で話される。

秋骨氏の書かれたものを、時々雑誌で発見すると、些つと皮肉なぞ云う人であるが、人物に接して見ると、皮肉らしい所がない。会って見た感じの面白い人である。

斯う話しに接続がない。丁度兎が飛ぶようにヒヨコリヒヨコリと話される人である。声に熱もなければ、調子に乗って吾が話に熱心になると云うこともない。

兎のような感じの人でもあるが、又、山雀のような人でもある。何となく面白味のある人である。

話をしながら、相手の顔を兎の目を細くしたような目で、如何にも不思議そうに見詰めて、其目を中々動かさうとはされぬ。笑う時にも決して、顔の全部で笑われない。目尻と口元とで笑う人だ。

秋骨氏は矢張り文學界の同人である。然し、比較的

學界臭味が抜けて居る。人物が文學界離れがして居る。氣取った所と、くさ味と厭味なところが少ない。何所か人間離れのしたとぼけたような人である。

秋骨氏は何学校かの先生であると言ふことだ。然し、所謂先生らしい所がない。形のない顔である。





日本文学電子図書館

---

現代文士廿八人

著 者：中村武羅夫

制作者：宮澤一郎

出版社：日高有倫堂

明治42年7月10日 印刷

明治42年7月16日 発行

---

日本文学電子図書館